龍谷大学校友会
福岡県・北豊支部会報
－第８号－
2020（令和２）年８月発行

黎（れいめい）明

編集発行／北豊支部事務局
〒829-0102　福岡県築上郡築上町
築城717 金剛寺内
☎0930-52-1107　FAX0930-52-1103

この状況から新しい活動のアイディアを…
赤松校友会々長、全国支部へエール！

年度始めの総会開催にあたり、本年度は新型コロナウイルス流行のため、校友会本部より〈書面総会〉の勧奨とともに赤松徹眞・校友会々長より左記のような一文が発信されました。
５月の北豊支部総会中止のお知らせの折には紹介できませんでしたので、このたび、ここに全文を掲載いたします。

龍谷大学校友会支部総会に寄せて

龍谷大学校友会会長　赤松徹眞

龍谷大学校友会員の皆さまには、龍谷大学校友会の多岐にわたる活動に、多大なるご理解とご協力、ご支援を賜り厚く御礼申しあげます。

２０２０年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、母校も入学式を始め様ざまな事業が中止となりました。校友会の事業も、卒業生の皆さまの安全を最優先することと感染拡大防止の観点から、この度の「書面総会」を勧めさせていただきました。移動、集会、その他の制限がある中、ご対応くださった貴支部役員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

２０１９年度（２０２０年３月）は卒業式の中止に伴い、各学部同窓会と校友会が開催する龍谷「新入会員歓迎祝賀会」も中止となりました。例年はその場で、龍谷大学校友会員としてお迎えするのですが、それが叶いませんでした。卒業生の皆さまに祝意と歓迎の意を直接お伝えできないことは残念でしたが、この困難な状況の中、新しい世界に進まれていることを心より応援したく、本状況の終息を見届けて卒業生の皆さんと大学関係者が改めて集い、語り合える場の実施を検討してまいりたいと考えております。

現在、９学部１短期大学部を有する母校からは国内外を問わず、幅広い分野で社会のために力を尽くしている卒業生が大勢おられます。新型コロナウイルスの影響に対しても、医療、研究、教育、感染防止関連物品の製造、情報、物流・・・、様ざまな分野で対応されています。シドニーで国際弁護士をされている卒業生の方からは、現地で失業の危機に立たされた方々の救済のために奔走されているというお話を聞きました。

校友会の支部は、世代を超えて様ざまな卒業生が集まり、情報交換や懇親を楽しみ、学び、助け合い、協力できるコミュニティーの一つです。支部が活性することは、龍谷大学卒業生の居場所づくりの充実であると考えています。

２０２０年度は、海外在住者や若手世代の方々にとっての居場所づくりの推進をしていきたかったのですが、まずは、現状の終息のために私たち一人ひとりが意識を高めて過ごすことが第一義と考えています。しかしながら、今のこの状況からも校友会や支部の新しい活動のアイディアがきっと生まれてくると思います。

活動が再開できた際には、皆さまのアイディアが活かされた新しい活動が生み出されることを期待しております。

校友会は、その存在目的である母校発展の寄与と卒業生の親睦の充実を図ることを念頭に今後も努めてまいります。卒業生の皆さまにおかれましては校友会の活動にご理解をいただき、今後ともご支援賜りますよう、また、校友会や支部の事業に積極的にご参加くださいますようお願い申しあげます。

校友リレーエッセイ

龍大〈二豊会〉の思い出

1957年・文学部卒
西　明　晃　雄

昭和28年6月28日、北九州地方は大変な水害に見舞われました。私の住んでいる門司は豪雨で全市が濁流に飲み込まれ、山崩れが起こり、死者137名、全・半壊1500戸の大惨事となり、関門鉄道トンネルも水没、不通となりました。

その年の4月、私は生まれ育った寺（編集註：門司区、浄土真宗本願寺派・三光寺）を離れ龍谷大学に入学したばかりでした。ラジオで水害のニュースを聞きすぐに帰省をと思いましたが、門司の寺は大丈夫だからと言われ夏休みになって帰りましたが、その悲惨な姿を処々で見ることでした。

4月、龍大に入学してまもなく、〈二豊会〉の新入生歓迎会によばれました。他の同級生は皆、それぞれ出身の○○県人会に出席していましたが、私は福岡県人なのになぜ二豊会なのかと少し疑問に思っていました。

二豊会についてはこの会報でも概略説明がありましたが、福岡県は筑前・筑後の〈両筑会〉と豊前・豊後よりなる二豊会に分かれていて、特に現北九州市（編集註：北九州市の発足は1963年で、この当時はまだ小倉・門司・八幡・戸畑・若松の5市として存在）は近隣にありながら二つの会に分かれ、同級生でも全く交流がないのは淋しい思いでした。

しかし同時に、二豊会において北豊地区はもちろん、大分地区の先輩、同級生と知り合い、以後親しく交流を深めることができましたことはとても嬉しく、有り難いことでした。

私の二豊会での思い出の一つに、入学して間もない頃の親睦ハイキングがあります。〝鞍馬の火祭り〟に行った折のこと、私は生まれて初めて焼酎を飲みました（飲まされました!?）。私は門司港の沖仲仕の人たちが仕事帰りに酒屋によって立ち飲みしている姿をいつも見ていましたから、焼酎は肉体労働をする人たちの飲む臭いお酒と思っていました。ところがその時は誰かがラムネを買ってきて、それで割って飲んだものですから、少し甘く、とても美味しく感じたことを、今でも懐かしく思い出します。

また、ある時には大原へハイキングに行き、三千院の裏山で弁当を食べ交流を深めました（その時の写真を見ると、全員学生服です。今の時代では考えられないことです）。

その後、4回生になると私は会長に任ぜられ、今度は新入生歓迎会を主催していく立場となりました。

例年、西本願寺前の旅館が会場となり、田丸道忍本願寺総長や藤音得忍京都女子大学長など、当時京都でご活躍中だった二豊会の先輩諸氏に寄付をお願いにまわりましたが、皆気持ちよくご協力くださいました。

それでも、宴会の始めは日本酒ですが、日本酒は高価なのでだんだんと安い合成酒へと変わり、それをお互い酌み交わして親交を深めたことでした。

この二豊会は大学在学中だけでなく、卒業後も毎夏該当地区のいずれかの寺院で布教大会を催し、勧学・司教といった諸先生方をお招きして研修と懇親を深めていきました。

私もあちこちのお寺に参拝させていただき、自坊で開催の折には大原性実勧学和上にお越しいただきました。

今はこのような会もなくなり淋しいことですが、昨年10月に小倉ステーションホテルで福岡県2支部の交流懇親会が催されたことは大変嬉しく有り難く思ったことです。

今後、時々でもこの交流会が開催され、またこうした校友の集いに多くの方々が参加され、より一層発展されることを切に念願するところです。

〔文責・事務局〕

「北豊支部」のルーツを確認

50年前の校友会・北豊支部はこんなだ！

今号のリレーエッセイは、前号にて福岡県2支部交流会に関連して説明を付記した「二豊会」にまつわるお話でした。

さらに、執筆をお願いした西明氏の原稿を清書しているとき、ちょうど二豊会に関しての古い資料が出てきたとのことで、事務局で保管してほしいとの連絡がありました。

おそらくこれが福岡県における龍大同窓会の最初と思われます。決して意図してこのようになったわけではありませんが、せっかくですのでお預かりした資料より、当時の活動なりを少しご紹介させていただきます。

§§§§§§§§§§§§§§§

まず名称は「北豊龍谷大学同窓会」となっていますが、会員名簿には現・北豊地区以外にも、大分県中津市、宇佐市、豊後高田市の地名があり、察するに〃二豊〃のうち本来の北豊、つまり旧豊前国での会として運営されていたようです。ある年の記録に「今年度は二豊同窓会で開催」とあり、豊後（南豊）地区からの参加者名が記録されていました。

主な活動は、西明氏のエッセイにもあったように、「夏期講習会」と名付けられた、ご講師をご案内しての年に一度の研修会です。記録が昭和34年から46年まで残されており、13年間継続されたことがわかります。

それをみると、ご講師に大原性実、普賢大円師など、当時ご高名な先生方のお名前がずらりと並び、また大勢の集う三日間にわたっての研鑽の様子から、当時のこの会の熱さがひしひしと伝わってくるようです。

しかし、この当時はいよいよ寺院関係の会員ばかりだったようで、名簿には所属寺院の欄があります。そこが空欄の方も多少おられましたが、その多くには抹消線が引かれてありました。名簿や研修の記録だけみれば、全く僧侶対象の会としか思えません。

深草学舎ができ経済や経営、さらに法学の各学部が新設されたのが昭和36年以降ですから無理もないことですが、それが9学部1短期大学部に2万人が在籍し、卒業生は20万人にも及ぼうという現在でも、現在の北豊支部もおよそ90%が寺院関係者であるように、大学の特性上、地方の支部が背負っていかねばならない宿命のようなものかもしれません。

以前にも少し触れましたが、これが北豊支部の特徴であり、これを利点と転じて新たな支部活動が展開できるよう、今後の皆さんのご尽力、ご協力に期待するところです。

事務局雑感

▼皆さま、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスに集中豪雨や酷暑といった異常気象と、とんでもない夏になってしまいました。でも、考えてみればこれらのことは、人間自身がその原因をつくってきた結果かもしれません。▼録画していた正月放送のお笑い番組をたまたま見ていると、「今年は楽しみですねぇ」「え、何が？」「何が、てオリンピックやん！」「え、そんなんあんの？」「当たり前やん!!」と突っ込んでいましたが、今となってはとても笑えない状況となってしまいました。よく、失って初めてその価値を知ると言われますが、人間は失ってみることなしにそれを知ることはできないのかもしれません。当たり前に思っていた日常が、〃当たり前〃どころか、実はどれ程の多くの縁のうえにたまたま存在していた〃有り難い〃ものであったか、改めて考えさせられます。▼総会中止のお知らせの折、「本年度中にぜひ一度は懇親会を」と申しましたが、このような状況下で、特に飲食をともにする場などいよいよ難しくなってきました。役員会開催もままならず、懇親会の予定は、現地点では全く見通しの立たない状態です。楽しみにお待ちの皆さま（私が一番か!?）には誠に恐縮ですが、どうぞ諸事情ご賢察のうえ、よろしくご了承のほどお願いいたします。〔記・O〕

龍谷写真館ｉｎ北豊

・下、昭和43年開催の「夏期講習会」。７月21日から23日の三日間、長寿寺さま（築上町水原）を会場に行われました。ご講師（前列中央）は当時、龍大教授で司教の武邑尚邦先生。

〈二豊会〉特集

・50年前の校友会（上）と60年前の龍大生（右２枚）です。詳細は２、３ページをご覧ください。なお、カラーページになってないのは決して印刷代をけちったわけではなく、原本が白黒写真のためでした（表紙はちゃんとカラーで☺）。

●ちなみに…

・上、編集０の時代にも、こんな学生がいました（1980年版イヤーブックから転載）が‥‥。

・上、左、大原へハイキングに。上の写真、後列左端が２ページ執筆者の西明氏（間違えていたらご免なさい！）。お若い（当たり前か）!!

なるほど、石坂洋次郎や「青い山脈」の世界を彷彿とさせます。それにしても、日本のここ百年ほどの生活の変化には驚くばかりです。